

2016年6月 3号

原発再稼働に反対！



## 川内原発停止・脱原発を実現し、自然エネルギー中心 の社会実現の意見書採択を求める請願 **松原のりかず紹介**

岐阜市議会 6 月議会、標記の請願紹介の発言を 松原のりかず が行ないました。請願は、別処雅樹さん（岐阜市黒野在住）提出、紹介議員は無所属クラブと共産党岐阜市議団です。

### 再生可能エネルギー資源開発こそ「真の地方創生」だ！ **福島**

本年 3 月 6 日の新聞掲載（中日）です。会津電力社長の佐藤彌右衛門（さとう・やうえもん）さんは「エネルギーの自立こそ」という小論文を寄せられています。それによれば、

会津は美しい。私はいつもこの地に生まれたことを誇りに思い、自然の豊かさに心を震わせています。・・・豊かな「食」に恵まれ、食料自給率は、ゆうに 100% を超え、その多くを国内外に供給してきました。

ところが 2011 年 3 月、東京電力福島第一原子力発電所で事故が起こり、私たちは恐怖のどん底に突き落とされました。会津は深刻な放射能汚染を免れたとはいえ、30 年来の付き合いのある飯舘村では、全村避難を余儀なくされ、約 16 万人もの福島県民が避難することに。「原発の安全神話にだまされていた」という痛恨の思いがこみ上げました。・・・

会津には、豊かな水資源があります。水力発電は 400 万キロワットという莫大な発電能力があります。福島の 200 万県民が使う量（最大 145 万キロワット）の 3 倍近く発電しているのですが、河川の水利権、その莫大な利益は、大手電力会社に独占され、わずかな税金が地元自治体に払われているだけです。

会津電力は、地元豊富にある、水力、木質バイオマス、地熱、風力、太陽光などの再生可能エネルギー資源を利用して、自給だけでなく余剰から地域還元を目差します。エネルギー自立により、国の交付金や補助金に依存する自治を脱却していくことが会津電力の目的でもあり、これこそが「真の地方創生」だと確信しています。

と、東北の再生可能エネルギーについて語っておられます。



### 「再稼働より廃炉技術」と、川勝平太 静岡県知事が回答

インタビュー記事「浜岡原発 停止 5 年 静岡知事に聞く」が 5 月 15 日新聞掲載（中日）されました。「再稼働より廃炉技術を」の大見出しであります。インタビューに対し、川勝平太静岡県知事はこう答えています。 **表面につづく**

連絡先 市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町 1-21 でんわ 253-2500

「九州電力川内原発はまだしっかりとした避難計画ができていないのに、再稼働をした。それは言語道断だ。静岡県は再稼働うんぬんにかかわらず、計画策定を可及的速やかに進めている。危機管理がすべてに優先するのは県の基本方針だ。」

そして、インタビュー「原発の安全神話が崩れた今、中電に求められるものは何か。」との問いに対し、

「廃炉技術の確立だ、これは全世界的問題で、完成したらノーベル賞ものだ。そうしたことを浜岡原発でやっていけばよいと考える。」と回答しています。

東京電力福島原発での連続爆発、メルトダウン事故によって、海も山も大地も汚染され、これから被曝者が大量にでることも予想されます。震度7を2回も記録した熊本地震は、地震大国日本での原発稼働の危険性を強く示しています。狭い国土で、住民はどこへ避難すべきか悩んでいます。わたしたちは未来の命のために、自然を傷つけ、エネルギーを浪費する生活を見直し、あらゆる生物と共存する「持続可能で平和な社会」を希求します。

まず、原発廃止に向け政治のカジを切り、核エネルギー政策からの大転換を強く訴えます。下記のことを要請する意見書採択を求める請願といたします。

#### 記

- 1 川内原発を直ちに停止すること。
- 2 原子力発電所の新規計画を中止し、浜岡をはじめとした、既存の原子力発電所の計画的な廃炉を実施することを求めます。
- 3 もっとも危険なプルトニウムを利用する、高速増殖炉「もんじゅ」及び核燃料再処理工場を運転せず、廃棄することを求めます。
- 4 省エネルギー・自然エネルギーを中心に据えた、エネルギー政策へ転換を早急に始めることを求めます。



松原のりかず  
☎058-253-2500